

豊友会だより第八回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載いたします。
次回、第九回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

第八回豊友会俳壇(豊友会だより第67号)

兼題－1： 凧

| 投稿者 | 作 品 |
|-------|--|
| 赤塚慎一郎 | 凧や森へあたふた群鳥 |
| 浅見 茂 | こがらしにポツと火がつく古手紙 |
| 石井 孝夫 | 凧やコロナとともにあれくるう |
| 岩井鑛治郎 | 木枯らしに肚干しあぐる浜の幸 |
| 上田 正隆 | 中庭の枝をも揺らし木枯らしが |
| 大坪 孝至 | 野歩きに凧巖し晴れし朝 |
| 小俣 祥忠 | 木枯や奏でる笛の強と弱 |
| 海外 涼 | 凧や花びら散らすにべもなし |
| 川上 千里 | 凧のいつしか止みし夜明けかな |
| 川畑 耕祐 | 木枯が吹いて木の葉が宙に舞う |
| 黒山 茂英 | 凧や補聴器やけに鳴りやまず |
| 小泉 隆広 | 木枯に足元とらるりヤカ引き |
| 齋藤 修一 | 凧に吹かれ降りだす枯葉かな |
| 斎藤 光 | 凧や綺羅を競へる星の数 |
| 櫻井 暎子 | 木枯しを避けて通るや新歩道 |
| 重田 康之 | 凧やセットの髪も元どおり |
| 武川 順子 | 裏山のざわつく竹や木枯らしか |
| 田中 道泰 | 山里の <small>じょうじょう</small> 声 <small>く</small> 嫋嫋と凧来 |
| 土田 悦男 | 予報あり明日は冷え込む木枯し来 |
| 富宇賀 孝 | 凧の調べ聴きみる庭師かな |
| 中村 隆晴 | 木枯や軒で雀が羽休め |
| 野下 晴夫 | 街中の拡声器様木枯か |
| 宮田奈津子 | 凧に揺れる一枝熟し柿 |
| 矢倉 弘泰 | 木枯去りけさの遠山くつきりと |
| 矢治 宏之 | 凧の止みたる空に星数多 |
| 屋代順治郎 | 凧の吹き抜けし朝澄み渡り |
| 吉武 繁廣 | 凧や前にかがみてペダル踏む |

兼題一2:桜餅

| 投稿者 | 作 品 |
|-------|---------------------------|
| 赤塚慎一郎 | 古暖簾ゆかし老舗の桜餅 |
| 浅見 茂 | 仲直り母の手作り桜餅 |
| 石井 孝夫 | 黒茶碗湯気たちうたう桜餅 |
| 岩井鑛治郎 | うす墨の花色知らず桜餅 |
| 上田 正隆 | 母逝きて笑顔の写真桜餅 |
| 小俣 祥忠 | 食間も食後さへ喜 ^よ し桜餅 |
| 海外 涼 | 桜餅眺めて葉ごと食べにけり |
| 川上 千里 | 母の忌やあの店のあの桜餅 |
| 川畑 耕祐 | 桜餅並べ人呼ぶ茶店かな |
| 黒山 茂英 | 妻ら集ひ家ぬち匂ふ桜餅 |
| 小泉 隆広 | 桜餅上野の山の店にあり |
| 齋藤 修一 | 桜餅関東で呼ぶ道明寺 |
| 斎藤 光 | かしましきをとめのなかにさくらもち |
| 櫻井 暎子 | ウォーキングほのかな塩味さくら餅 |
| 重田 康之 | 墓参経て桜餅買ふ母娘 |
| 武川 順子 | 前年に漬けし桜葉包む餅 |
| 田中 道泰 | 里ごころ包みさくら餅を喰ふ |
| 土田 悦男 | 隅田川ゆるりと一服桜餅 |
| 富宇賀 孝 | 奥の細道筆写して桜餅 |
| 中村 隆晴 | 手に取るやほのかに香る桜餅 |
| 野下 晴夫 | 香り良い葉が醸し出す桜餅 |
| 宮田奈津子 | 桜餅上野の鐘が時を告ぐ |
| 矢倉 弘泰 | 墨堤に来て思ひ出す桜餅 |
| 矢治 宏之 | 朝からの雨降り続き桜餅 |
| 屋代順治郎 | 桜餅食べし香りの指眺め |
| 吉武 繁廣 | 広縁に二人並びて桜餅 |

自由題:冬・春

| 投稿者 | 作 品 |
|-------|---|
| 赤塚慎一郎 | 亀鳴くや沙汰なき人の巴里に在り |
| 浅見 茂 | 亡き兄の声ふりむけば寒の月 |
| 石井 孝夫 | もう一年静かな車内マスク顔 |
| 岩井鑛治郎 | 夫病みて八つ手の花の見ゆる家 |
| 上田 正隆 | 寒空に木星土星重なりぬ |
| 小俣 祥忠 | 冬いちご産毛始末の京料理 |
| 海外 涼 | 初氷懐かしくなり押してみる |
| 川上 千里 | さざ波に今生預け鴨揺れる |
| 川畑 耕祐 | 北国の雪の便りに胸痛む |
| 黒山 茂英 | 婚儀待つドレス純白百千鳥 |
| 小泉 隆広 | 目も鼻も堅守に ^{こしら} え ^{しゆる} 棕櫚を剥ぐ |
| 齋藤 修一 | 老夫婦初日拝礼半蔵門 |
| 斎藤 光 | どの顔も笑って春の泥つけて |
| 櫻井 暎子 | 一列に肩を寄せ合ひ日向ぼこ |
| 重田 康之 | 蠟梅の花弁はすべて柔らかき |
| 高野ちかの | 抱つこされ顔ふせてをり春一番 |
| 武川 順子 | 朝霜に日差しめがけて早歩き |
| 田中 道泰 | 語りみて春の近しと風の日々 |
| 土田 悦男 | 初雪や可憐ふ、足あとはねる鳥 |
| 富宇賀 孝 | あかときの燦然たりし寒の星 |
| 中村 隆晴 | 過ぎし日々老いを忘れて春を待つ |
| 野下 晴夫 | 梅つぼみ春よ来いとメジロ突く |
| 宮田奈津子 | 寒風に研ぎ澄まされし二日月 |
| 矢倉 弘泰 | 柔らかく香る蠟梅朝の日に |
| 矢治 宏之 | 紅梅の向かふに聳ゆ天守閣 |
| 屋代順治郎 | 鐘撞きて余韻に祈り年迎ふ |
| 吉武 繁廣 | 寒柝にあわせ点滅広告塔 |